

## 財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

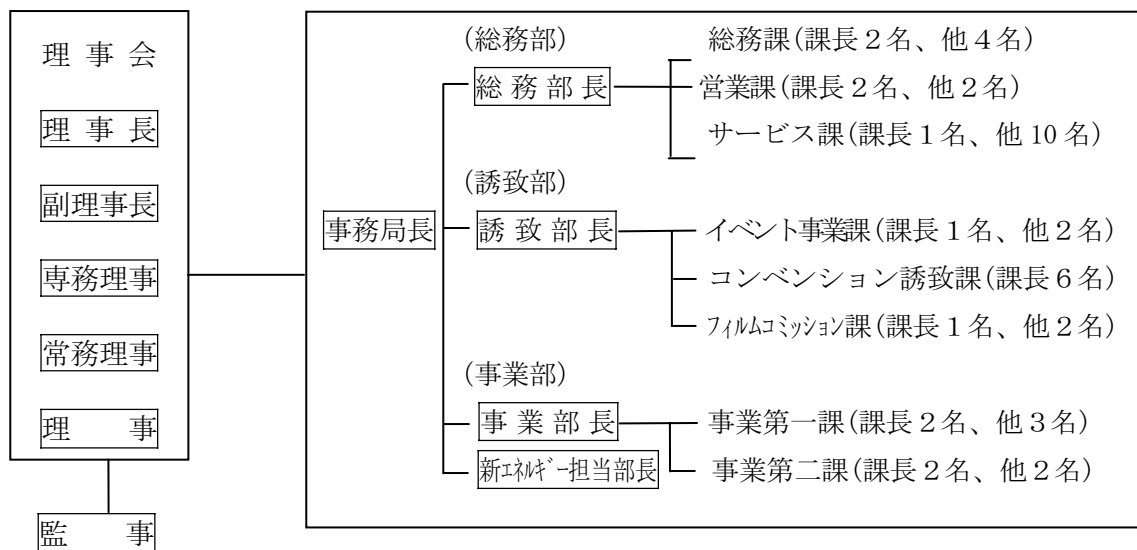
当協会は、内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興を図り、もってわが国経済の健全な発展に寄与することを目的に昭和 51 年に通商産業大臣認可で設立され、平成 17 年 7 月に(財)北九州コンベンションビューローの機能を統合し、名称を(財)西日本産業貿易コンベンション協会に変更しました。

現在は、昭和 52 年に建設された西日本総合展示場(現本館)と北九州国際展示場(平成 10 年 4 月に市が設置)及び北九州国際会議場(平成 2 年 10 月に市が設置)を一体的に管理・運営しながら、各種見本市・展示会の開催や会議・大会等の誘致をしています。

〔設 立〕	昭和 51 年 3 月 25 日
〔所 在 地〕	北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号 Tel 093-511-6848
〔目 的〕	内外の工業製品等の展示紹介を通じて、西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、北九州市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資し、もってわが国経済の健全な発展に寄与する。
〔事 業〕	(1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援 (2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援 (3) 前 2 号の事業の用に供する施設の管理及び運営 (4) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
〔基本財産〕	2,478,014 千円 <うち本市出捐額 1,750,000 千円(70.6%)>
〔決算期〕	毎年 3 月 31 日
〔主務官庁〕	経済産業省、九州運輸局
〔本市所管〕	産業経済局産業振興部貿易振興課 (Tel 093-551-3605)

1 法人の組織（平成20年12月1日現在）

(1) 機構図



(2) 役職員数

	人数	人数の内訳			平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	22人	3人	0人	19人	61歳
職員	47人	13人	0人	34人	41歳

(3) 役員名

- [理事長] 重瀨 雅敏
- [副理事長] 麻生 渡、北橋 健治、藤井 康雄
- [専務理事] 安藤 英和
- [常務理事] 村上 英治
- [理事] 古川 康、金子 原二郎、蒲島 郁夫、広瀬 勝貞、東国原 英夫、伊藤 祐一郎、仲井眞 弘多、二井 関成、鎌田 迪貞、吉川 卓志、河部 浩幸、中野 文治、飯野 一義
- [監事] 疋田 慶一、羽田野 隆士、赤司 真人

## 2 主な事業実績（平成19年度）

### (1) 見本市・展示会事業

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画、開催した。

#### ① 主催・共催事業

##### 1) 当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

地域における産業・貿易の振興を目的として、当協会は以下のとおり見本市・展示会を企画、開催した。

※（ ）内は昨年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
①西日本インポートフェア2007	H19年5月2日～6日	41,335人 (56,921)	91社・団体 (97)
②第47回西日本総合機械展	6月21日～23日	18,058人 (17,789)	70社・団体 (59)
③第33回ふくおか産業技術振興展			35社・団体 (31)
④アジア産業交流フェア2007			35社・団体 (41)
⑤第29回西日本陶磁器フェスタ	9月21日～25日	41,228人 (42,542)	156社 (179)
⑥九州・国際テクノフェアICT2007	10月10日～12日	15,092人 (15,185)	118社・団体 (126)
⑦中小企業テクノフェアIN九州2007			36社・団体 (53)
⑧エコ・テクノ2007	10月17日～19日	29,039人 (32,183)	190社・団体 (202)
⑨福岡水素エネルギー社会近未来展 2007			70社・団体 (82)
⑩P.P.C.2007第9回西日本国際福祉機器展	11月16日～18日	26,410人 (29,053)	105社・団体 (110)
⑪第9回手づくり市場in北九州	11月24日～25日	10,688人 (10,151)	119組・団体 (156)
⑫第27回西日本トータルリビングショー	H20年3月14日～16日	11,326人 (14,854)	101社・団体 (80)
合計	12事業	193,176人 (218,678)	1,126社・他 (1,216)

### 2) セミナー・シンポジウム等の併催

1) に掲げる当協会の主催・共催事業と並行して、セミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高めた。

\*テーマ数 67 テーマ

\*総参加者数 6,411 名

#### ② 誘致・支援事業

西日本総合展示場新館・本館及び北九州国際会議場の19年度使用料収入の確保及び稼働率の向上を図るため、会場を利用した展示会の企画開発を始め、企業・団体が主催する展示会・個展、各種イベントなどの誘致活動を展開し、開催された。

\*総事業数 11 事業

\*総入場者数 118,450 人

### ③ 関係団体との連携事業

#### 1) 九州半導体イノベーション協議会

九州シリコン・クラスター計画の組織母体である九州半導体イノベーション協議会からの受託事業として、セミコン・ジャパン 2007 へ出展した。

#### 2) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、市等の地域政策の推進にあたり、行政機関はもとより、大学や関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

#### 3) アジアとの連携・交流

##### ア 第 14 回九州（日本）・韓国経済交流会議の開催

九州経済産業局の所管する「第 14 回九州（日本）・韓国経済交流会議」の日本側事務局として関係団体・機関との交流を図った。

##### イ 第 7 回環黄海経済・技術交流会議への参加

九州経済産業局が所管し、環黄海経済・技術交流会議が実施した「第 7 回環黄海経済・技術交流会議」に参加し、関係団体・機関との交流を図った。

##### ウ 主催事業におけるアジア企業との連携

主 催 事 業 名	企業出展内容	関係国・機関等
西日本インポートフェア2007	4 社、8 小間	韓国優良製品振興協会
	3 社、4 小間	タイ国政府貿易センター
	2 社、3 小間	スリランカ大使館
	3 社、3 小間	インド貿易振興局等
	1 社、1 小間	パキスタン大使館
アジア産業交流フェア2007	17社・団体 17小間	韓日産業・技術協力財団
	13社・団体 10小間	上海交通大学等
	5 社・団体 5 小間	タイ国大使館 経済・投資事務所
中小企業テクノフェア I N九州2007	1 団体、1 小間	韓国中小企業振興公団
エコテクノ2007	15社（商談・交流会）	韓国環境・リサイクルビジネス商談・交流会
	20社（交流会）	大連市環境保護産業協会
第29回西日本陶磁器フェスタ	1 団体、2 小間	大韓民国忠清南道熊本事務所
第27回西日本トータルリビングショー	1 団体、1 小間	駐福岡中国総領事館

### (2) 会議・大会等

都市間競争が激化する中、本市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める大型コンベンションを誘致するため、全国のキーパーソンに積極的かつ計画的に誘致活動を行った。

また、平成 19 年度から、映像制作の誘致・支援業務を北九州市から受託し、都市のイメージアップと地域の経済・観光振興を図るとともに、この事業を通じ、幅広い人脈を確保することによりコンベンション誘致の充実を図った。

① 主催・共催事業

北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した俳句、将棋、映画の上映等文化事業や異業種交流を目的とした事業など、小学生から年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

*総事業数	4 事業
*総入場者数	3,647 人

② 誘致・支援事業

九州の各県主要都市とのコンベンション誘致競争は依然厳しい状況である。平成19年度においても誘致活動を有利に展開するため、引き続き開催助成金や支援の制度を活かし、大型のイベントやスポーツ大会をはじめ、会議・学会等の誘致件数増加を目指し積極的な活動を行った結果、開催件数が前年度を上回った。

1) 誘致・支援活動の取り組み

ア 会議主催者への誘致活動

工学、環境、医学など北九州市の特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議、大型学会等の誘致を目指し、市内の大学(九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学、産業医科大学、九州歯科大学)や九州大学、山口大学などのキーパーソンを軸に誘致活動を行った。また、首都圏の学会事務局やPCO(プロフェッショナル・コンベンション・オーガナイザー)への営業も積極的に行うとともに、必要に応じて北九州市と連携した誘致活動を実施した。

また平成20年3月7日に北九州市立美術館を会場に、早稲田大学や産業医科大学等のキーパーソン15名の参加を得て、学術交流会を開催した。

イ 大会主催者への誘致活動

スポーツ、文化、職域団体などの各種団体に対し誘致活動を実施した。首都圏などの団体事務局にも積極的に訪問し、大型の大会誘致を実現した。

また平成20年2月27日に国際会議場を会場に、福岡県体育協会やスポーツ競技団体のキーパーソン36名の参加を得て、スポーツコンベンション情報交換会を開催した。

【国際ミーティング・エキスポ(IME2007)への出展】

東京国際フォーラムで開催された日本で唯一のコンベンション関係展示会・トレードショーである「第17回国際ミーティング・エキスポ(IME2007)」に出展し、来場したキーパーソンに北九州空港、本市のコンベンション施設・支援内容、観光・文化施設などを紹介、誘致活動を行った。

ウ 東アジア地区への誘致活動

東アジア地区の研究者、大学教授等とネットワークを持つ地元工学系の大学・大学院教授(キーパーソン)を通じ、国際コンベンションの誘致活動を行った。ターゲットは台湾、中国、韓国、香港、シンガポール、タイ方面とし、地元教授が出席する学会・会議に同行し、現地キーパーソン、会議参加者等に北九州市開催をPRした。

【第15回IT&CMA2007への出展】

タイ国バンコク市で開催されたアジア地域最大級の展示会である「第15回インセン

ティブ・トラベル&コンベンション、ミーティング・アジア (IT&CMA2007)」に出展し、オーガナイザー・旅行社 23 社と商談を行った。

#### エ コンベンション助成金

平成 6 年度より北九州市コンベンション開催助成金制度を導入し、コンベンション誘致を積極的に展開してきた。

\*助成件数 67 件

\*助成金 39,510 千円

#### オ コンベンションボランティア

国際会議での語学応援、会場応援や日本文化体験など、ボランティア登録者が広く活躍できるよう主催者に対し、ボランティア制度の PR を積極的に行った。

\*派遣件数 7 件

\*派遣人数 62 人

### 2) 誘致結果

#### ◆誘致件数及び参加者数の推移

区 分	国際	全国	その他	合計
誘致件数 (件)	43	60	64	167
参加者数 (人)	27,598	80,686	36,266	144,550

### 3) 俳句・吟行の誘致

「俳句のまち北九州」をめざして、平成 5 年より俳句誘致・支援に取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを活用して大会・吟行の誘致活動を行った。

平成 19 年度は、遠賀郡の結社「青嶺」の全国大会、兵庫県の結社「山茶花」の全国大会などを誘致し、皿倉山、平尾台地区などを巡る吟行会を支援した。

### 4) 映像制作誘致・支援事業 (北九州フィルム・コミッション) の取り組み

平成 19 年度より当該業務を北九州市より受託し、積極的に映像製作の誘致・支援事業に取り組んだ。

#### ア 映画・ドラマの支援作品 17件

放送、配給 or 製作	タ イ ト ル	撮影期間	公開日・放映日
東宝	映画「ALWAYS 続・三丁目の夕日」	H19. 4. 8	H19. 11. 3
テレビ朝日	「法医学教室の事件ファイル25」	H19. 6. 15~20	H19. 10. 13
フジテレビ	「はだしのゲン」	H19. 6. 22~23	H19. 8. 10 11
NHK	「海峡」 第 1 話、第 3 話	H19. 7. 27~29	H19. 11. 17 23 24
東宝	映画「ザ・マジックアワー」	H19. 9. 1~5	H20. 6. 7
フジテレビ	浅見伝説三部作第一弾「耳なし芳一からの手紙」	H19. 10. 15	H20. 1. 11
自主制作映画	「FLOW・浮」	H19. 10. 26	-
自主制作映画	「少し楽しくなる動画」	H19. 11. 23	-

NHK	「フルスイング」第1話～第6話	H19. 11. 15～20	H20. 1. 19～2. 23 (毎週土曜日)
東宝	映画「K-20 怪人二十面相・伝」	H20. 1. 23～2. 4 H20. 3. 12	H21. 1公開予定
映画「KIZUKI」 製作委員会	映画「K I Z U K I」	H20. 2. 15～22	H20. 6公開予定

イ CMの支援実績 3件

ウ 市民参加

フィルムコミッションの活動を広く市民に周知するとともに、映像製作支援の一環として積極的な市民参加を図った。エキストラとして延べ528人、ボランティアスタッフとして延べ70人、合計延べ598人の参加があった。

(3) 広報・宣伝活動

施設の利用促進や施設利用者のサービス向上及び見本市・展示会、会議・大会等各種コンベンションの誘致を積極的に図るため、ホームページの活用や機関誌の発行、新聞並びに業界紙等様々な媒体への広告掲載など効果的な広報・宣伝活動を行った。

① 広報・宣伝

1) インターネットの活用

当協会のホームページにて、催事情報や施設情報など最新の内容を逐次提供した。

2) 機関誌「CO-」の発行

機関誌の発行を通じて、主催事業や誘致した展示会・イベント・学術会議・スポーツ大会など独自のコンベンション情報や市の観光・文化等に関する情報などを広く紹介した。(年4回 6,000部/回)

3) コンベンションカレンダーの作成と提供

市内で開催されるコンベンション情報を収集・整理し、コンベンションカレンダーとして定期的に賛助会員等への提供を行った。

4) コンベンションゾーンのPR

小倉駅北口コンベンションゾーンの知名度の向上を図るため、広告のリニューアルやCM放映を行った。

ア JR小倉駅電照広告のリニューアル

JR小倉駅構内の電照広告をリニューアルし、人目を引く内容とした。

イ JR小倉駅JAM広場内でのCM放映

協会のCMを製作し、小倉駅JAM広場に設置しているマルチビジョンで放映した。

\*CM放映期間：8月1日～3月31日、放映回数 約70回/日

5) 協会30周年誌の発行

本館設立30周年を記念し、協会の歴史や事業内容がわかる冊子を製作した。

## ② 地域の特性に応じた取り組み

### 1) 駅のある展示場事業

#### ア J R九州等との連携

J R小倉駅と連結した本施設の立地環境をPRするため、J R小倉駅・北九州主要駅（5駅）に常設掲示板を設置するとともに、J R九州及びJ R西日本各駅に主催事業のポスター等を掲示し、市内外からの集客向上を図るためのネットワークづくりに取り組んだ。

#### イ イメージアップの取り組み

小型時刻表・名刺型時刻表へ展示場の広告を掲載した。また、協会の主催事業である展示会案内とJR九州の主力観光をセットにしたリーフレットを共同制作し、J R九州管内の駅で配布した。

### 2) 小倉駅北口の振興

#### ア 北口賑わいづくり事業

主要交通機関の結接点として、優れた機能を有する小倉駅北口地域において、魅力的なイベントなどを企画・開催し、小倉駅北口地区の賑わいづくりに寄与した。

#### イ 小倉駅北口地区振興連絡会との連携

小倉駅北口で開催される事業やイベントを紹介するための広報主体を、これまでのリーフレットから、ホームページ「ホクホクガイド」の活用充実へと転換した。

各社による月毎のプレゼントの実施及び紹介、また地区全体の事業紹介などを行い、訪問される方々がホームページ内を回遊できるようにした。

また、クリスマスの時期にあわせ、各々の団体にポインセチアのフラワーポットを配付し、地域の美化活動に取り組んだ。

平成 18 年度より開始した地区の持続性ある賑わいを創出するためのコンサートイベントである「北九州ミュージック&パフォーマンス」を、運営主体のLISTと共催で計4回実施した。

## (4) 運営・管理

協会の自主・自立の観点から、中長期的な運営方針を定めるとともに、活動拠点となる西日本総合展示場本館に加え、指定管理施設である新館及び国際会議場の運営について、公正かつ適正な管理運営による効果的・効率的な業務実施を行った。

### ① 中期経営計画の策定

財政的・人的関与を必要最小限とする北九州市の方針に対応し、協会の自主・自立及び安定経営を目指して、平成 20 年度～平成 25 年度を期間とする「中期経営計画」を策定した。



## ② 管理業務の効率化

### 1) サービスの向上

#### ア サービス課の受付窓口の統合

空室状況の確認や申込、事前打合せなど、展示場と会議場で分散していた受付業務を包括的かつ迅速に対応することを目的とし、サービス課受付窓口を会議場に一元化し、利用者の利便性の向上を図った。

#### イ 施設貸出時間の延長

新館会議室の利便性と施設稼働率の向上を図るため、貸出時間を「午後6時まで」から「午後10時まで」に延長した。

#### ウ 展示場・会議室の名称の整理

本館、新館の展示場及び会議室の名称が重複してわかりにくいとのお客様等からの指摘に対応し、展示場をアルファベット・会議室を数字に整理し、関連する誘導看板や申込書など表示物の改定を行った。

### 2) 管理経費の削減

当協会が管理する3施設とキプロが所有するAIMビルの4施設一体管理契約による効率化を図り、約31百万円の経費節減を達成した。

さらに、主催事業委託等の各種契約において、複数業者による価格競争を徹底し経費の削減を行った。

### 3) 未収金対策

未収金に対し断固たる態度で臨み、裁判や支払督促等の法的措置及び回収努力等により、平成18年度末現在、20件：2,743千円あった未収金のうち、16件：1,852千円(67.5%)を整理することができた。

### 4) 事業評価委員会の設置

外部有識者による「事業評価委員会」を平成20年3月14日に設置した。

### 5) エコアクション21認証取得に向けた取り組み

環境に対する職員の意識改革と経費節減を図るため、環境省策定の「エコアクション21」の認証に向けた取り組みを開始し、平成20年度中に取得見込みである。

## ③ 施設の改善

利用者・来場者への安心、安全性の向上を図るため、設備の改善等を実施した。

### 1) AED（自動体外式除細動器）の設置

利用者並びに来場者の万一の救急救命に備えるため、展示場本館、新館、AIM3F展示場及び会議場の4施設すべてにAEDを設置して安全性を向上させ、協会職員全員に普通救命講習を実施した。

### 2) 機能的備品の導入

北九州国際会議場にはフロント投射型1台とリア投射型3台の最新鋭デジタル高輝度プロジェクターを導入し、映像機能を強化した。また、展示場新館には老朽化した備品の椅子2,520脚の全てを、汚損が目立たないビニールレザー製に入替えるとともに、机120台も新調し、お客様の利便性の向上を図った。

また、利益を社会に還元するという観点から、これらの備品を市に寄付することとした。

### 3) 新館地下駐車場等天井パネル補強工事

新館地下駐車場で天井パネル（木毛板）の落下事故に対応し、地下駐車場並びに同様の工法で施工された1階ローディングヤードのすべての天井部分に留め金具を打設する補強工事を実施した。

#### ④ 稼働率等

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)	成約高 (億円)
西日本総合展示場 (本館)	78	241	65.8	26	93
西日本総合展示場 (新館)	128	272	75.6	40	94
北九州国際会議場	681	313	86.9	8	—

### 3 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成18年度	平成19年度
出 捐 金 の 状 況	1,750,000	1,750,000
補 助 金	2,000	2,000
委 託 料	713,069	715,527
貸 付 金 残 高	0	0

#### 4 資産・収支の状況（平成19年度決算）

##### (1) 貸借対照表

平成20年3月31日現在（単位：円）

科 目	一般会計	付随特別会計	展示特別会計	誘致特別会計	指定管理特別 会 計	内部取引消去	合 計
<b>I 資産の部</b>							
1. 流動資産							
現金・預金	45,163,383	22,212,636	62,094,526	51,754,627	99,114,021		280,339,193
印紙・証紙	6,258,872						6,258,872
仮払金	6,725,792	4,871,560		112,100	663,042		12,372,494
未収金	12,089,481	9,543,449	15,371,458		251,070		37,255,458
立替金	23,430						23,430
貸付金	10,500,000						10,500,000
一般会計貸付金		9,420,558			2,548,720	▲ 11,969,278	0
付随特別会計貸付金					3,605,051	▲ 3,605,051	0
展示特別会計貸付金	59,866,049				12,644,425	▲ 72,510,474	0
誘致特別会計貸付金	26,950,091				3,145,105	▲ 30,095,196	0
流動資産合計	167,577,098	46,048,203	77,465,984	51,866,727	121,971,434	▲ 118,179,999	346,749,447
2. 固定資産							
(1) 基本財産							
建物	587,365,348						587,365,348
建物附属設備	169,000						169,000
構築物	3,735,139						3,735,139
機械及び装置	144,831,687						144,831,687
減価償却引当資産	885,113,659						885,113,659
基本財産引当資産	856,799,328						856,799,328
基本財産合計	2,478,014,161	0	0	0	0	0	2,478,014,161
(2) 特定資産							
退職給付引当資産	103,725,699						103,725,699
減価償却引当資産	11,881,783						11,881,783
修繕引当資産	534,116,961						534,116,961
事業開催引当資産	12,127,000						12,127,000
特定資産合計	661,851,443						661,851,443
(3) その他固定資産							
建物	3,763,305						3,763,305
構築物		3,912,384					3,912,384
車両運搬具	64,852	55,000					119,852
什器備品	489,476	514,444			13,300,350		14,304,270
ソフトウェア					3,375,750		3,375,750
電話加入権	622,277						622,277
保証金	5,000						5,000
その他固定資産合計	4,944,910	4,481,828	0	0	16,676,100	0	26,102,838
固定資産合計	3,144,810,514	4,481,828	0	0	16,676,100	0	3,165,968,442
<b>資産合計</b>	<b>3,312,387,612</b>	<b>50,530,031</b>	<b>77,465,984</b>	<b>51,866,727</b>	<b>138,647,534</b>	<b>▲ 118,179,999</b>	<b>3,512,717,889</b>

<b>II 負債の部</b>							
1. 流動負債							
預り金	4,930,932		45,333	1,388	5,568,837		10,546,490
未払金	14,651,723	24,902,157	11,069,076	18,768,879	90,129,245		159,521,080
前受金	3,239,100	81,900	13,294,005	15,638,080	8,898,058		41,151,143
仮受金	3,800,000	750			5,000		3,805,750
一般会計借入金			59,866,049	26,950,091		▲ 86,816,140	0
付随特別会計借入金	9,420,558					▲ 9,420,558	0
指定特別会計借入金	2,548,720	3,605,051	12,644,425	3,145,105		▲ 21,943,301	0
流動負債合計	38,591,033	28,589,858	96,918,888	64,503,543	104,601,140	▲ 118,179,999	215,024,463
2. 固定負債							
退職給付引当金	103,650,699						103,650,699
固定負債合計	103,650,699	0	0	0	0	0	103,650,699
<b>負債合計</b>	<b>142,241,732</b>	<b>28,589,858</b>	<b>96,918,888</b>	<b>64,503,543</b>	<b>104,601,140</b>	<b>▲ 118,179,999</b>	<b>318,675,162</b>
<b>III 正味財産の部</b>							
1. 指定正味財産							
展示場設備受贈益	736,101,174						736,101,174
寄付金	856,000,000						856,000,000
基本財産運用益	799,328						799,328
指定正味財産合計	1,592,900,502	0	0	0	0	0	1,592,900,502
(うち基本財産への充当額)	(1,592,900,502)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,592,900,502)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産							
	1,577,245,378	21,940,173	▲ 19,452,904	▲ 12,636,816	34,046,394	0	1,601,142,225
(うち基本財産への充当額)	(885,113,659)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(885,113,659)
(うち特定資産への充当額)	(558,200,744)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(558,200,744)
<b>正味財産合計</b>	<b>3,170,145,880</b>	<b>21,940,173</b>	<b>▲ 19,452,904</b>	<b>▲ 12,636,816</b>	<b>34,046,394</b>	<b>0</b>	<b>3,194,042,727</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>3,312,387,612</b>	<b>50,530,031</b>	<b>77,465,984</b>	<b>51,866,727</b>	<b>138,647,534</b>	<b>▲ 118,179,999</b>	<b>3,512,717,889</b>

## (2) 収支計算書

自 平成 19 年 4 月 1 日  
至 平成 20 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	合 計	一般会計	付随特別会計	展示特別会計	誘致特別会計	指定管理 特別会計
<b>I 収入の部</b>						
基本財産運用収入	18,572,908	18,572,908				
展示場事業収入	74,888,367	74,888,367				
営 業 収 入	91,530,374		91,530,374			
展示会事業収入	209,651,535			209,651,535		
補助金等収入	6,525,937			6,525,937		
誘致支援受託金等収入	117,489,470				117,489,470	
指定管理者受託金収入	620,772,817					620,772,817
負担金収入	15,574,264	15,574,264				
会 費 収 入	7,780,500	7,780,500				
雑 収 入	29,638,739	16,121,550		11,338,012	1,919,752	259,425
固定資産売却収入	512,124,491	512,124,491				
特定預金取崩収入	743,854,170	743,644,170		210,000		
繰入金収入	67,013,501	67,013,501				
当期収入合計 (A)	2,515,417,073	1,455,719,751	91,530,374	227,725,484	119,409,222	621,032,242
前期繰越収支差額	122,244,856	127,831,956	8,219,494	▲17,065,646	2,734,713	524,339
収入合計 (B)	2,637,661,929	1,583,551,707	99,749,868	210,659,838	122,143,935	621,556,581
<b>II 支出の部</b>						
管 理 費	69,153,897	69,153,897				
営 業 費 用	64,256,666		64,256,666			
展示会開催費	230,112,742			230,112,742		
誘致支援事業費	134,690,031				134,690,031	
指定管理者事業費	536,170,163					536,170,163
事業外費用	2,452,100		1,021,356		90,720	1,340,024
固定資産取得支出	760,320,270	743,644,170				16,676,100
特定預金支出	641,767,575	641,767,575				
繰入金支出	67,013,501		17,013,501			50,000,000
当期支出合計 (C)	2,505,936,945	1,454,565,642	82,291,523	230,112,742	134,780,751	604,186,287
当期収支差額(A)－(C)	9,480,128	1,154,109	9,238,851	▲2,387,258	▲15,371,529	16,845,955
次期繰越収支差額(B)－(C)	131,724,984	128,986,065	17,458,345	▲19,452,904	▲12,636,816	17,370,294